

Ⅱ 尿管結石の排石における

漢方薬の使用経験

熊本大学大学院生命科学研究部 泌尿器科分野¹⁾

熊本セントラル病院 泌尿器科²⁾

久留米大学医療センター 先進漢方治療センター³⁾

黒川 慎一郎^{1) 2) 3)}、薬師寺 和昭³⁾、坂田 雅弘³⁾

沈 龍佑³⁾、亀尾 順子³⁾、駒井 幹³⁾

清川 千枝³⁾、八木 実³⁾、田中 英裕²⁾

川畑 幸嗣²⁾、神波 大己¹⁾、恵紙 英昭³⁾

食生活の多様化とともに尿管結石の患者は増加に一途を辿っており、再発を繰り返す患者も、多く手術を行う受ける機会が増えている。

原因として欧米化の食生活の影響、生活リズムの変化等、メタボリックシンドロームの一つと考えられている。2015年に改定された尿管結石のガイドラインでは、漢方薬治療が、掲載されている。

今回、下部尿管結石患者に対して、発症時より排石増進のため猪苓湯を投与し、排石に至った症例を経験したので報告する。

【症例】

50才男性。腰背部痛、肉眼的血尿を主訴に当院受診された。

既往歴に、10年前体外衝撃波碎石術(ESWL)の治療歴があった。来院時当科では結石発作は落ち着いており、腹部超音波検査、KUBを施行。

検査の結果、X線陽性の尿管結石(U3 7mm大)の診断となった。

尿管結石のガイドライン上では、10mm以下の尿管結石において排石の可能性がある、まずは内服で加療を行う方針とした。排石効果のある利尿剤である猪苓湯(TJ-40)(2.5g)3包3×食直前を使用した。猪苓湯は、猪苓、茯苓等の利尿作用もあり、一般的には、尿道炎、腎臓炎等で使用されている。しかしながら、漢方史実(傷寒論・金匱要略)では、腎石症と記載があり結石治療としても効果のある薬剤である。このことは、一般泌尿器科医師においても認知が低いと考える。

今回、猪苓湯内服で排石に至った尿管結石の患者を経験したので文献的な考察をつけて報告する。